

2026 WORLD ROWING CHAMPIONSHIPS REPORT 3 (8/24,25)

いよいよ世界選手権が開幕しました。日本代表チームからは大会初日の8月24日(月)にW2-クルー(米川 志保 選手(トヨタ自動車)、高野 晃帆 選手(関西電力))が登場し、強豪が顔をそろえた予選(Heat)で奮闘致しました。また、M1x(櫻間 達也 選手(NTT東日本))は8月26日(水)のHeatに向けて落ち着いて準備を進めております。



好天に恵まれた大会初日、熱い戦いの火ぶたが切って落とされました。



とってもアートなシャトルバス



コースサイドのウッドデッキとファンゾーン



艇の調整に余念のないコーチ陣



集中してトレーニングをする
M1x櫻間
選手(NTT
東日本)

W2- 予選 (Heat)

スタートは横一線。しかし徐々にアメリカが前に出てオーストラリア、ニュージーランド、フランスが続き、さらに日本とブラジルが追いかける展開に。序盤は日本も良く付いていくが、徐々に遅れ始める。500mの通過は1位アメリカ、2位オーストラリア、3位ニュージーランド、4位フランス、日本は5位で1位アメリカとは7.72秒差、着順でのSemifinal進出となる2位オーストラリアとは5.85秒差。ただ、2位オーストラリアから4位フランスまでのグループに食い込めれば十分にチャンスは出てくる位置にいる。第2クォーターに入っても日本は粘りのローイングを見せ2位グループが確認できる位置にいるが、差はじりじりと開いていき、1000m地点では2位オーストラリアとも14.31秒差に広がる。第3クォーターに入るとペースが乱れないフランスが徐々にポジションを上げレースを盛り上げる。日本はブラジルの追撃をかわしながら上位グループを伺うが、ここでも差はじりじりと開き続けた。ラストクォーター、アメリカはそのまま悠々と漕ぎ切り1位でSemifinal進出。2位争いはオーストラリアをかわしたフランスが制した。3位オーストラリア、4位ニュージーランド、5位の日本は1位アメリカから33.33秒遅れで5位。6位ブラジルという結果となった。この組からは4位のニュージーランドまでが、各組2位以外のタイム順でSemifinalに進出した。日本はブラジルと共にFinal Cに進むことになった。



ゴール前、力漕するW2-クルー(写真左から)B高野選手(関西電力)、S米川選手(トヨタ自動車)

8月26日(水)出漕クルー

現地時間 13:47
(日本時間 20:47)
M1x Heat2
櫻間 達也(NTT東日本)

- 1 プエルトリコ
- 2 ソマリア
- 3 日本
- 4 ルーマニア
- 5 ノルウェー
- 6 ウズベキスタン

※予選2位以内、若しくは各組予選2位以外の1～10位以内に入れば、8月28日(金)に行われるQFに進出します。



現地時間 14:24
(日本時間 21:24)
W2- Final C
米川 志保(トヨタ自動車)、
高野 晃帆(関西電力)

- 1 日本
- 2 スイス
- 3 南アフリカ
- 4 中国
- 5 スペイン
- 6 ブラジル



引き続き、ご声援よろしくお願い申し上げます。